

簡単にできる

# 投資情報の集め方、まとめ方

岡本和久

投資をする場合、自分で銘柄を選択する際に大切なことは、何といても情報収集でしょう。特に、個人投資家の方は、最初から「情報収集なんて無理だよ」とあきらめがちです。しかし、まず、自分自身の注意を経済や企業の動きに向けて、それを蓄積していかないことにはとても自分自身で銘柄を選ぶことなどできません。そこで今回は、投資情報の集め方とそのまとめ方についてコツを伝授しましょう。

## ○ 情報は記録として残すことに価値がある

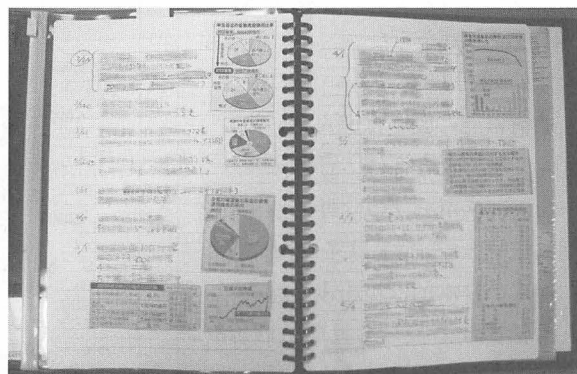
「予兆のない変化はない」と言われる通り、普段から十分に身の回りにある情報に注意していれば、かなりのことが予測できるはずなのです。例えば、新聞には毎日、膨大な量の情報があります。それを、ただ漫然と読んでいただけでは、新聞を閉じた途端に内容を忘れてしまいます。せっかく新聞を読んで得た情報も、忘れてしまっては元も子もありません。だからこそ、それを記録として残すことが必要になってくるのです。

私はかつて、興味をひいた記事を切り抜いて、それをスクラップ・ブックに貼ったりしていたことがあります。ただ、これは手間と時間が非常にかかってしまいます。そして量が増えてしまい、その結果、後日、目的の記事を探そうとしてもなかなか見つからないことにもなります。また大体、新聞を切り抜く作業をすると、手が真っ黒になってしまうのも不愉快になってしまいます。

## ○ 「情報ノート」の活用法

そこで私は20年ぐらい前から「情報ノート」(写真)をつけ始めたのです。「情報ノート」といっても別に特別なノートがあるわけではなく、B5サイズのルーズリーフを活用しています。もちろん、好みでA4でもかまいません。私の場合は持ち運びに便利のようにB5にしているだけです。

そこに毎日の新聞で興味をひいた記事の日付と見出し



のみを書きます。これだと1つの記事が数行で終わります。大体、見出しの文章を見れば記事の内容の8割ぐらいはわかるものです。面白い表やグラフでもあれば、それも切って貼っておけば完璧です。

新聞だけでなく、雑誌でもいいし、テレビなどで面白いと思った話があればそれをメモっておいてもいいわけです。とにかくできるだけ簡略に書くことが必要なのです。もし将来、どうしてもある記事の全体を読む必要が出てきた場合は、図書館でその新聞の縮刷版を見ればいいのです。記事の日付がわかっているのだから、簡単に探すことができます。

そして、このノートを時々ペラペラとめくってみると、とても面白いものです。飛行機の窓から下界を見下ろしているように、世の中の動きがわかります。また、自分の興味がどのように変化しているのかも一目瞭然です。そして、その中から大きなトレンドを把握するのです。

情報ノートのメモがある程度たまってきたら、それを気になるテーマごとに分析してみると、なかなか面白い結果が表れます。

例えば、今後の景気動向が気になるなら、ノートの真ん中に縦に一本線を引き、景気にとってプラスなら左側に、マイナスなら右側に、そして、中立なら線の上に、過去2~3ヵ月分の関連記事の、一番大きな見出しのみを書き写してみる。そして右側と左側のどちらが増えていくかを見る。そのようなことをしていると、知らない間に自分自身の景況感というもの少しずつ養われてい

くのです。

## 情報の山の中に埋もれないための 「何でも3ポイント法」

ところで、かつて私はアナリストとしてたくさんの企業を訪問していました。企業を訪問するたびに大量の情報を得るのですが、そのうち情報の山の中に埋もれてしまって、何がなんだかわからなくなってしまうことがしばしばありました。誰しも持つ悩みだったのでしょ。そんな私に、親しかったアメリカ人のポートフォリオ・マネージャーが良い方法を教えてくれました。それはミーティングの結果を3つのポイントに要約して、訪問記録の最後に書いておくというものです。

これは非常に効果的な方法でした。どんなミーティングでも、最も重要なポイントというのは大体3つぐらいにまとまるものです。次の会議へ移動するタクシーの中などで、その3ポイントを絞り込むのです。これをするとそのミーティングの内容を復習したことになり、要点がはっきりしてきます。ということは、その3ポイントは記憶に残るわけです。後に、3ポイントを思い出すと、そのとき絞り込んだプロセスが記憶によみがえり、そのミーティング全体の印象が浮かび上がってくるのです。

もし、3ポイントでは足りないと思うときは、それはまだまだ絞り込みが足りないのでしょうか。もっと本当に重要なことを選別して考えをまとめていけば、3ポイントぐらいになるものです。反対に重要な点が3ポイントもなかった場合、それはミーティングの内容が不十分だったか、あるいは自分の注意力が足りなかったのかもしれません。大体、1時間もミーティングをするなら、せめて3ポイントぐらいは重要なことを見つけたいものです。また、ミーティングをする際は、相手の話の要点を3つ探すことに集中してみましょう。そうすることによって、中身の濃い会話ができるようになります。

やりだしてみるとこの方法は、非常に幅広い分野で応用できることがすぐ分かります。例えば情報ノート

をつけるとき、新聞記事を読んだらその内容を3ポイントにまとめておきます。そしてノートに書いた見出しの側に、その3ポイントをメモしておくのです。これは非常に有益な結果につながります。雑誌の記事でも同じです。テレビの場合は、何か面白い番組があったときに「なぜ、面白かったか」を3ポイントに絞ってメモしておきます。

このように情報を3ポイントにまとめることが上達してくると、今度はあなたが誰かに話をするときも、うまく内容をまとめて伝えることができるようになります。つまり、情報を与えたい相手に、どんな3ポイントを伝えるかをあらかじめ考えておき、それを強調して話をするのです。これを私は「何でも3ポイント法」と呼んでいます。

投資情報は、「手に入らない」ことに問題があるのではないのです。実は「多すぎる」ことが問題なのです。膨大な量の情報の中に埋没してしまって、何がなんだかわからなくなっていることが問題なのです。

それを「情報ノート」で簡潔にインデックス化しておけば、この問題は解決します。それをするによって社会、経済、産業などで起こっている事が大局的に把握できるようになります。そして、「何でも3ポイント法」で内容をまとめることにより、物事の本質をシンプルに理解できるように自分の脳をトレーニングしてゆくの。これらは私にとっては強力なツールです。✂

(おかもと かずひさ/投資顧問会社経営)

